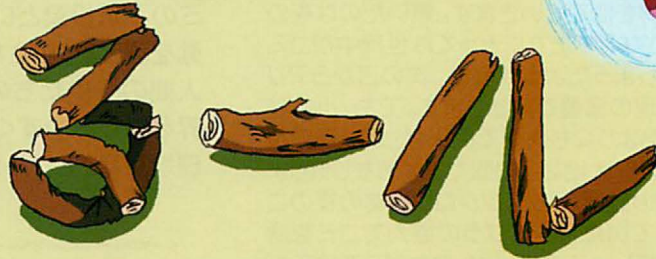
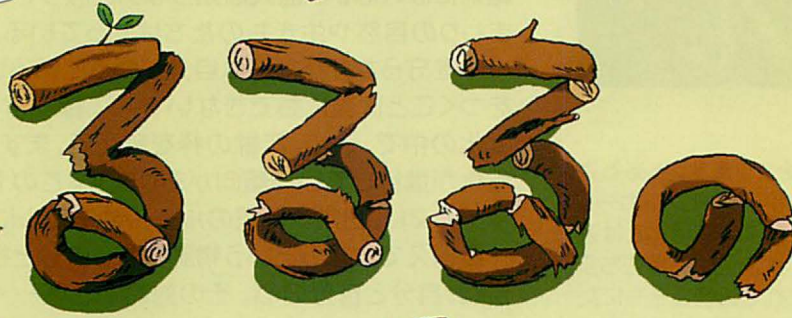
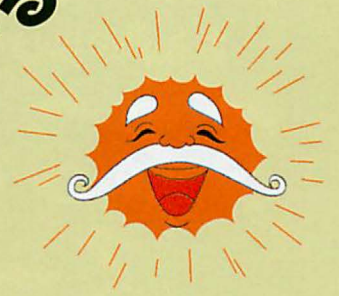


天知る 地知る 我知る 人知る

ある森のおはなし



アニメーション 16分

16mm価格 ¥180,000(税別)

VHS価格 ¥50,000(税別)

幼稚園・学校価格 ¥25,000(税別)



製作・著作

アニメーション画房 わ組・JHV

JHV
JAPAN HOME VIDEO

幼児・小学生向け

天知る 地知る 我知る 人知る

ある森のおはなし

るるるの ルール

● あらすじ

この物語は静かな月の夜から始まります。とある森にどこからともなくやって来た小型のダンプカー。ダンプカーには二人の男。「やばくない?ほんとに違反だろ?」「誰も見ちゃいないよ。さっさと、捨てちまおうぜ」男たちは夜の闇にまぎれて轟音とともにたくさんの廃棄物を捨てていきます。驚いたのは森のアリたち。小さなアリたちにとっては世界中がゴミの山になってしまったような有様。次の日からアリたちはゴミ処理の奮闘が始まります。でも、小さなアリたちにはあまりにも大量で巨大なゴミ。森の精霊である太陽、雲、大地などの面々も知恵をしばりますがなかなかの難題。一方、フクロウはあの夜のことをすべて見ていた月やポプラの協力でゴミを捨てた男たちを探し当てます。男たちもゴミを捨てた罪の意識に悩んでいました。捨てたはずのゴミが後悔に変わって、男たちの心に溜まっていたのです。森の精霊である自然たちや生き物たちは合言葉のようにつぶやきます。「テンシルチシルワレシルヒトシル……るるるのルールがあるある」この呪文のような言葉の意味は何か?るるるのルールとは?久しぶりに訪れた人間の子供たちも変わり果てたゴミの山に呆然とします。子供たちにとってこの森の広場は「ゴロンパ」と呼ぶ大切な遊び場でした。やがて子供たちも加わり、ここを元の気持ちの良い場所に戻そうとする作業はコツコツと毎日積み重ねられていきます。子供たちは働きました。アリも働きました。太陽は見守り、風や木々たちは、さりげなく手助けをします。時々カラスも小さなゴミを拾っていきます。掃除を手伝う子供は増えていきます。でも、立ちふさがる子供たちの力ではどうにもならないゴミ……。そんな悪戦苦闘を見て、最後に手を差しのべた協力者とは?「テンシルチシルワレシルヒトシル……るるるのルールがあるある」人間のエゴとゴミ、自然のルール、モラルとエコロジーについて……。物語はある森の広場を舞台に、ファンタジーの要素を盛り込みながら様々な問題について共に考えながら展開されていきます。

天知る地知る我知る人知る

「四知」として有名なこの言葉をキーワードに、エコロジーやモラルについて考える、ちょっと不思議なある森の物語。

「テンシルチシルワレシルヒトシル……」

絶対にばれない。他人は知らないと思っても、天や地やまわりの自然や生きものたちは知っている。何より、ルールを守らなかった事は自分が知っているし、自分に嘘をつくことは誰にもできない……。様々な社会状況の変化の中で、近年、年齢の枠を越えて、ますます利己主義化が進行している傾向があります。この「四知」を基本テーマに、日常や環境のルールやモラルについてももう一度考えてみようという物語です。自分と社会、自分と自然、自分と自分の心。その対峙と葛藤……ひとつのゴミの不法投棄という「エゴ」を発端に巻き起こる森の騒動を通して、小さな生き物たち、森を構成する自然たち、人間の子供たちの行動や意見が描かれていきます。世界をつかみやすく楽しい、箱庭的ファンタジーを題材に、環境教育、モラル育成の一助としてご活用ください。

「こりゃあ、三千年はかかるね。全部きれいにするにはさ」「いや、三千年たっても、土に戻らないゴミもあるよきっと」「なんで、自然の掟(おきて)を守らないかね……ルールをさ。人間だけだろ?そんなものこしらえるのは」



「俺たちの心の中にゴミが溜まっているな……」「ああ……。あそこへ捨てたはずのゴミだね……ルールを守らず捨てたゴミは、捨てたと思ってても残るんだよ、ここにさ。」

●お問い合わせ・お申し込み

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101